

## 「啐啄同時（そったくどうじ）」

教頭 阿部 和行

何年か前に「いつやるの 今でしょ!!」という言葉が流行しました。禅にも同じように「今」を表す言葉があります。

野鳥の卵というのは、ひな鳥が幼いくちばしで突く（啐といいます）だけでは割れないほど、丈夫なのだそうです。そのため、親鳥は、ひな鳥が卵の内側から突く音を聞いて外側から啄（つば）んでこれを助けるのだそうです（啄といいます）。これが同時に行われないとひな鳥の多くは無事に羽化できずに死んでしまうのだそうです。

私は、この「啐啄同時」こそが、教育の極意ではないかなと思っています。子どもたち自らが、「学びたい」、「運動で全国大会に出たい」、「就職したい」と願い、努力するときが必ずあります。障がいのあるなしにかかわらずです。この思いと、大人の支援のタイミングがぴったりと合い、首尾よくいったときに、子どもたちは大きく成長するものです。

私たち大人は、日々の生活の中で子どもたちが発するコツコツと殻（から）を突く音を聞き逃さないようにしたいものです。卒業、進級の時期は子どもたちにとっても新たな出会いが待っています。適応する力が問われると同時に飛躍の時もあります。「未来を切り開く」ために子どもたちが発する「音」はどんな音なのでしょうか。

楽しみに見守りたいと思っています。



## 「進路希望の実現に向けて」

進路指導部

様々な進路先について生徒や保護者の皆さんに情報提供やアドバイスをするために、自分で見聞きし、体験することで、「職場開拓」と「関係機関との連携」を大切にしてきました。進路決定に一番大切なことは、生徒自身が「自分で選んで自分で決める」ことです。高等部の生徒が増え、希望進路先も多岐にわたっています。進路指導部としては、適時適切な情報をこれからも各家庭へ提供していきたいと思えます。学校の掲示板やホームページを今後も充実させて参りますのでご覧ください。

また、高等部で行っている「産業現場等における実習」においては、今年度も相談支援専門員や「ふるんていあ」の職員の方に巡回指導に同行していただくことで、早くから生徒の情報共有をすることができました。卒業後にアフターフォローする際に必ず力になっていただける関係機関の皆さまとは今後も密に連携していきたいと考えております。

今年度の卒業生の進路予定先は、生活介護事業所5名、就労継続支援B型事業所9名、就労移行支援事業所1名、一般就労13名となっております。

会津地区の福祉サービス事業所、企業様においては、中学部の就業体験、高等部の産業現場等における実習をはじめ、父母と教師の会方部別の施設見学会、教職員の研修や施設見学においてたくさんのご理解とご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

児童生徒が本校で学んだ成果を社会で発揮し、地域の中できるとともに学び自立した生活を送ることができるよう支援していきたいと思えます。



### 第Ⅱ期産業現場等における実習

2018年 9月

有限会社 利通様において

## 小学部

### 『豆まき集会』

今年度はインフルエンザの流行もなく、学部全体で豆まき集会を行うことができました。5年生は年男、年女なので皆の代表として福豆を撒きました。鬼の登場に泣く児童もい



て、必死で豆をぶついたり、教師の陰に隠れたり、様々な様子が見られました。全員で鬼を追い払ったので、今年もきっとよい一年になります！

### 『雪遊び』

今年はずっと暖冬。雪遊びをするには大変厳しい冬となりました。雪が降った翌日には、どの学級もここぞとばかりに校庭へ。思い思いに活動を楽しんでいました。天気にも恵まれたアルツも、最高の思い出です。



## 中学部

今年度は、卒業後の進路に向けた学習に力を入れ、「作業学習」を週6時間に増やし、準備や片付け、目標設定や反省にも丁寧に時間をかけるようにしました。年2回の「校内実習」は、第Ⅱ期を2週間に延ばし、地域の企業から協力をいただき、本物の仕事に取り組みました。



また、「職場見学」を学年ごとに行い、実際の現場を目にし、自分の進路について、真剣に考える機会となりました。3学年は見学後実際に「就業体験」を実施しました。今後も働く喜びや態度を育て、卒業後に向けた進路選択や自立的な社会参加に向けて、働く意欲や態度を育て、段階的に学びを深められるようにしていきます。



## 高等部

高等部の教科学習の一つとして「職業」科があります。これは、働くことの意義について理解を深め積極的に作業や実習に取り組み、将来の職業生活に必要な知識や態度を身に付けることを目的とした学習です。今年度1学年では、働く上での自分の長所や短所、得意なこと不得意なことなどを知ったり、さまざまな職種や働くことの大切さなどについて学習してきました。実際に働いている先輩方の様子を知り、職場の現状や働く上での心構えなどを考えることもありました。2、3学年では、具体的な知識や態度の獲得を目指して、市役所やハローワーク等への見学、就職面接会への参加、履歴書の書き方や求人票の見方等々の学習を行ってきました。さらに卒業後の生活に向け社会人としてのマナー習得や各種トラブルの対応の仕方などについても学習するなど、自信と希望をもって社会に出て行く準備を生徒の実情に合わせ進めているところです。



進路指導主事の授業



履歴書用写真撮影

### 「国語・書写・書道での児童生徒の活躍」

7月の『福島県たなばた展』には、小中学部合わせて60名が出品し、特選9名をはじめ、数多くの児童生徒が入賞しました。1月の『福島県書きぞめ展』でも、15名が特選に輝きました。どの作品もすばらしいものばかりで、学校としても「奨励学校賞」を受賞しました。また、筆を使って自由に書く楽しさが醍醐味である金澤翔子美術館の『書き初め展』にも多くの出品があり、小学部の児童が「アール・ブリュット賞」を受賞しました。

例年取り組んでいる手紙の書き方体験授業では、『手紙作文コンクール』や、『年賀状大賞コンクール』へも多くの出品がありました。

さらに、7月と1月の2回、本校を会場に『漢字検定試験』を実施しました。のべ52名の生徒と卒業生が受検し、多数の合格者が出ました。漢字の習得だけでなく、継続して学習することの大切さなど、児童生徒にとって実りの多い学習の機会になったと思います。

そのほか、『今、あなたに贈りたい漢字コンテスト』に出品した高等部生の作品が佳作に入賞するなど、例年以上にたくさんの児童生徒が活躍しました。



金澤翔子美術館の書き初め展に出品した作品